

(参考資料2) 水辺の植物図鑑

純マングローブ

メヒルギ	1
オヒルギ	2
ヤエヤマヒルギ	3
ヒルギモドキ	4
ヒルギダマシ	5
マヤブシキ	6
ミミモチシダ	7
ニッパヤシ	8

付随的なマングローブ

サキシマスオウノキ	9
サガリバナ	10
ゴバンノアシ	11
シマシラキ	12
オオハマボウ	13
サキシマハマボウ	14
モモタマナ	15
オキナワキョウチクトウ	16
テリハボク	17
クロヨナ	18

海岸植物

グンバイヒルガオ	19
モンパノキ	20
クサトベラ	21
ナハキハギ	22
ハスノハギリ	23

資料提供：NPO法人おきなわ環境クラブ 一部改変引用

メヒルギ

【方言名】 インギ（宮古） ビーブシギ（西表）

【科名】 ヒルギ科 Rhizophoraceae

【学名】 *Kandelia obovata* Sheue, H., Y. Liu et W. H. Yong

【分布】 東シナ海以北の中国南部から台湾

日本では薩摩半島南部（喜入町、大浦町）・種子島・屋久島以南

【形態】 小高木 常緑広葉樹 高さ3～4m内外 花は白色 果実は卵形で胎生発芽し、20～25cmほどの幼根を垂れる

【用途】 防潮・防風樹 薪

【花・実】 開花は4～5月 実生は3～4月



メヒルギの広がり問題になっている漫湖



波間のメヒルギ幼木



花



夏頃から散布体がのびはじめる



散布体

オヒルギ

- 【方言名】 ウーピンギ（沖縄） インギー（宮古） ミーブシキ（西表）
【科名】 ヒルギ科 Rhizophoraceae
【学名】 *Bruguiera symnorrhiza* (L.) Lamk.
【分布】 アフリカ、オーストラリア、熱帯アジア、ポリネシア
日本では奄美大島以南の琉球列島
【形態】 熱帯では高木 常緑広葉樹 高さ10数m以上 萼片は赤～赤黄色で、花弁は白～クリーム色 果実は円錐形か卵形
【用途】 染料 用材
【花・実】 開花は6～7月 実生は5～6月



膝を曲げた形をした気根
膝根とよばれている



花



散布体

ヤエヤマヒルギ

【方言名】 インギー（宮古） マツアップシギ（西表）

【科名】 ヒルギ科 Rhizophoraceae

【学名】 *Rhizophora stylosa* Griff.

【分布】 オセアニアからインド西部

日本では沖縄島以南

【形態】 沖縄では小高木 常緑広葉樹 沖縄では高さ3～4m内外 タコの足のような支柱根を出す 花は白色 胎生種子

【用途】 用材 染料

【花・実】 花は9～10月 実生は7～8月



花



散布体



支柱根がタコの足のように広がっている

ヒルギモドキ

【方言名】

【科名】 シクンシ科 Combretaceae

【学名】 *Lumnitzera racemosa* Willd.

【分布】 オセアニアからインド

日本では沖縄島が北限地 宮古島では見つからない

【形態】 10m以下の中高木（沖縄では2～3m） 花は白色 種子は楕円形で小粒

【用途】 薪 枕木 舟材 建材 床材 チップ

【花・実】 開花は5～6月 実は7～9月



金武町億首川のヒルギモドキ壮齢木



散布体



花

ヒルギダマシ

【方言名】

【科名】 クマツツラ科 Verbenaceae

【学名】 *Avicennia marina* (Forsk.) Vierh.

【分布】 オセアニアから東アフリカ、熱帯アジア

日本では宮古島が分布の北限 1995年頃沖縄島にも移入

【形態】 20m以上の高木（沖縄では2～3m） 花は黄色 種子はそら豆形

【用途】 薪 建材 パルプ 肥料 飼料（栄養価が高く世界中で家畜の飼料となっている）

【花・実】 花は5～6月 実は9～10月



1983年の島尻マングローブ



2001年の島尻マングローブ



ヒルギダマシの花



実



鉛筆をたてたような形をした気根



実生苗

マヤブシキ

【方言名】

【科名】 マヤブシキ科 (ハマザクロ科) Sonneratiaceae

【学名】 *Sonneratia alba* J. Smith

【分布】 インド洋岸、マレーシア、南太平洋

日本では石垣島以南の小浜島、西表島

【形態】 高木でマングロープ林の構成種 小さな呼吸根 葉柄は赤色
花は白色 若葉や熟果は煮て食用 樹皮にはタンニンが多い

【用途】 薪材 板材 床材

【花・実】 花は初夏 果実は7~10月

【カテゴリー】 危急種



初夏に咲く
花



ザクロに似た果実



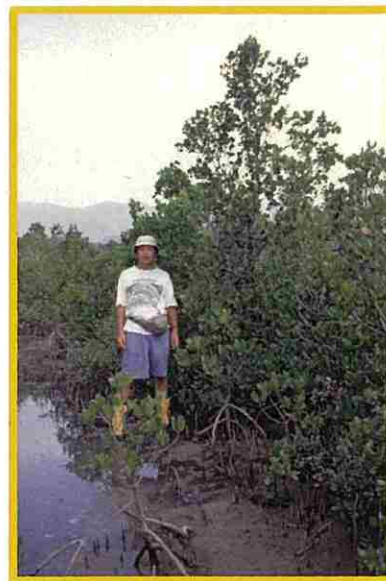
果実が落ちると割れ
て種子が出る



果実の中に150~200個の
種子が入っている



直立通気根



石垣市名蔵のマヤブシキ壮齢木

ミミモチシダ

【方言名】

【科名】 イノモトソウ科

【学名】 *Acrostichum aureum* Linnaeus

【分布】 インド、マレーシア、ミクロネシア、ポリネシア、熱帯アメリカ、アフリカ
日本では石垣島以南、西表島、与那国島に群落を形成 水田跡に群落を形成
マングローブ林後背地に生育する唯一のシダ植物 石垣島と与那国島
では生育環境の悪化で保護が必要

【形態】 常緑の多年草 根茎は太く、葉を束生し根は肥厚する
葉は線状で60cm～200cm 1回羽状、上部数対の羽片に孢子囊をつける

【用途】

【カテゴリー】 危急種



西表島浦内川河口域水田跡



石垣市名蔵の水田跡のコロニー



ニッパヤシ

【方言名】

【科名】 ヤシ科

【学名】 *Nipa fruticans* (Thunb.) Wurmb.

【分布】 南中国、インド、タイ、マレーシア、オセアニア

日本では西表島だけ 西表も船浦湾と内離島だけにコロニーを形成 海外では海に近い河口域で群生

【形態】 幹のないヤシ マングローブの構成種 雄花と雌花がある
果実は球形でアダンに似ている 堅い種子を持つ

【用途】 葉は屋根葺きや魚のわな、覆い、傘、帽子

果実は砂糖、アルコール、酢、発酵飲料の原料

【花・実】 開花は夏 果実は秋頃

【カテゴリー】 危急種



花が咲いた跡
西表船浦湾の株
県指定天然記念物



西表内離島のコロニー

サキシマスオウノキ

【方言名】 シーワーギー、ソマスタニ（沖縄） ダイギ（石垣） ダイミヨー（西表）

【科名】 アオギリ科 Sterculiaceae

【学名】 *Heritiera littoralis* Dryand.

【分布】 熱帯アジア、ポリネシア、熱帯アフリカ

日本では奄美大島以南の琉球列島。沖縄本島では国頭村安波、東村慶佐次のマングローブ林後背地。東村川田、名護市の汀間や許田、宜野座村漢那、那覇市国場、知念村安座間などに壮齢木

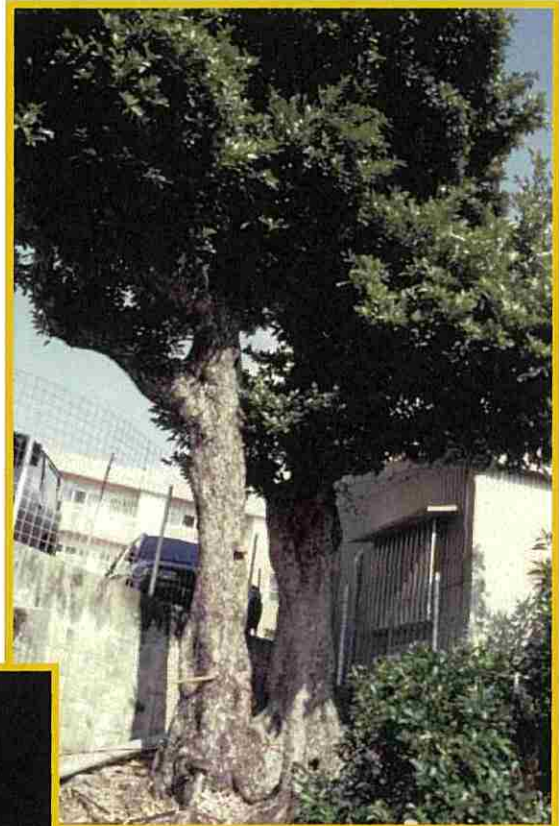
【形態】 高木 常緑広葉樹 高さ15m 花は多数で緑黄色
果実は硬い木質 錘形（ウルトラマンの頭形）

【用途】 公園樹 街路樹 用材 染料 薬用

【花・実】 開花は5～7月 実生は9～10月



果実



那覇市国場の壮齢木



東村川田の壮齢木

サガリバナ

【方言名】 キーフジ（首里） モウカバナ（名護） サワフジ（西原）
ズルガキ（石垣）

【科名】 サガリバナ科 Lecythidaceae

【学名】 *Barringtonia racemosa* (L.) Spreng.

【分布】 台湾、南中国、インド、マレーシア、ミクロネシア、ポリネシア
日本では奄美大島以南の琉球列島、沖縄本島では安波、慶佐次のマングローブ林後背地 名護市の真喜屋、西原町の内間御殿、宜野湾市のせせらぎ通り、那覇市国場や牧志、与那原町などに壮齢木

【形態】 小高木 常緑広葉樹 高さ10m 花は白色かピンク
果実は卵円形か卵状長楕円形

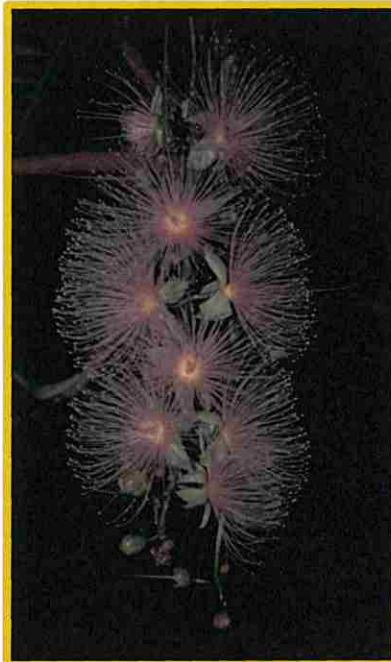
【用途】 公園や庭園樹 街路樹 魚毒用 薬用

【花・実】 開花は6～8月 実生は9～10月



花は初夏

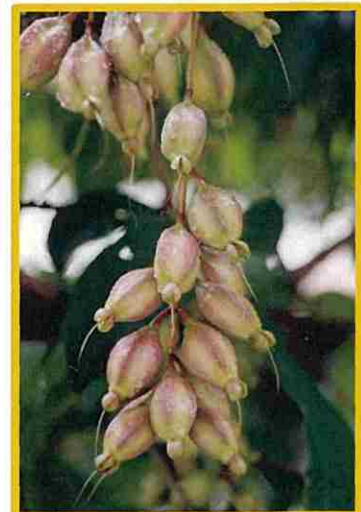
名護市真喜屋のサガリバナ



水面の花びら



平良市の保全種



果実



夜明けの川面に浮かぶ花びら（西表島）

ゴバンノアシ

【方言名】

【科名】 サガリバナ科 Lecythidaceae

【学名】 *Barringtonia asiatica* (L.) Kurz

【分布】 石垣島、西表島以南のインド、マレーシア、フィリピン、大洋州

日本では石垣島が北限。西表島やその周辺の下地島などで海岸や湿地で自生の壮齢木がある。毎年、秋から冬にかけて南の国から果実（種子）が海岸に流れ着く。それらの漂着種子から発芽し、育てた壮齢木が西表島や石垣島の民家の庭先にみられる。

【形態】 高木 常緑広葉樹 高さ8～15m 花（おしべ）はピンク

果実は8～14cmの四角錐で碁盤の脚の形

【用途】 公園や庭園樹 街路樹 魚毒用 薬用

【花・実】 開花は6～8月 実生は9～10月

【カテゴリー】 危急種



花は夏から秋にかけて夜咲く



和名は、果実が「碁盤の脚」に似ていることに由来



西表島豊原、民家のゴバンノアシ



石垣市の戸籍樹（美崎公園：ホテル宮平の前）

シマシラキ

【方言名】 インガザンギー〔海のカジュマル〕（宮古）

【科名】 トウダイグサ科 Euphorbiaceae

【学名】 *Excoecaria agallocha* L.

【分布】 インド洋岸、南太平洋

日本では奄美大島以南の琉球列島

【形態】 10m以下の中高木 常緑樹 雌雄異株 花は非常に小さく芳しい香り 乳白色の樹液には毒有

【用途】 板材 床材 魚毒 調味料 マッチ棒 香料 発疹に効く薬



漫湖に自生した20年の株



夏に花をつける

オオハマボウ

【方言名】 ユーナ、ユーナギ、ユナギ

【科名】 アオイ科

【学名】 *Hibiscus tiliaceus* L.

【分布】 熱帯、亜熱帯

日本では小笠原、屋久島・種子島以南

【形態】 4～12mの小高木 常緑広葉樹 花は黄色

【用途】 砂防・防風・防潮樹 添景樹 花木

【花・実】 開花は5～9月 実生は9～12月



海岸植生の代表種



種子



サキシマハマボウ

【方言名】 シマユーナ（沖縄） タマウギ（宮古） マヤマキ（八重山）

【科名】 アオイ科

【学名】 *Thespesia populnea* (L.) Solander ex Correa

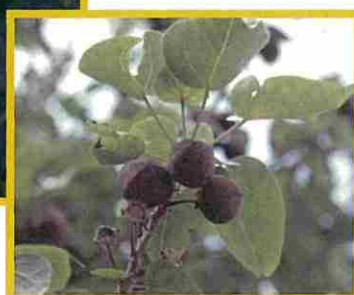
【分布】 熱帯アジア、台湾

日本では沖永良部島以南の琉球列島

【形態】 熱帯高木 常緑広葉樹 高さ5～6m内外 花は朝の咲きはじめは黄色で、夕方にはピンクを帯びた色になる 果実はにぶい5角の宝珠形

【用途】 添景樹 防潮風樹

【花・実】 開花は5～9月 実生は9～12月



モモタマシ

- 【方言名】 クファデーシ（沖縄） コータギー（伊良部） クバデーサ、クバシキ（八重山）
- 【科名】 シクンシ科 Combretaceae
- 【学名】 *Terminalia catappa* L.
- 【分布】 アフリカ、熱帯アジア、ミクロネシア、台湾
日本では沖縄島以南
- 【形態】 大高木 落葉広葉樹 高さ20m 花は小さく目立たない 果実は緑色で紡錘形
- 【用途】 公園や広場の日陰木 街路樹 景観樹
- 【花・実】 開花は3～8月 実生は10～2月



夏は日陰をつくり
冬は落葉する



果肉はコウモリの餌となる

オキナワキョウチクトウ

【方言名】 ミーフクラギ（沖縄） ミーフクラキ（八重山）

【科名】 キョウチクトウ科

【学名】 *Cerbera manghas* L.

【分布】 台湾、南中国～インド、セイロン、マレーシア

日本では奄美大島以南の琉球列島

【形態】 高さ20mの高木 常緑広葉樹 花は盆型で白色 果実はだ円形

【用途】 景観樹 防潮風樹 街路樹 緑化樹

【花・実】 開花は5～10月 実生は10～2月



白い花を咲かせる



果実には毒がある



デリハボク

- 【方言名】 ヤラブ、トウフクギ（沖縄）ヤラブギ、ヤラウ（宮古）ヤラブ（八重山）
- 【科名】 オトギリソウ科
- 【学名】 *Calophyllum inophyllum* L.
- 【分布】 台湾、熱帯アジア、ポリネシア、マダガスカル
- 【形態】 高さ20mの大高木 常緑広葉樹 花は白色で芳香有 果実は直径3cmくらいの球形
- 【用途】 景観樹 防潮風樹 用材
- 【花・実】 開花は5～7月 実生は10～12月（採種期）



街路樹として使われている（宮古島上野村への県道）



花



熟した実



発芽がよい。植樹用のポット苗



クロヨナ

- 【方言名】 ウカハ、ウカファ（沖縄） ウカバギー（宮古） ウカバキー（八重山）
- 【科名】 マメ科 Leguminosae
- 【学名】 *Pongamia pinnata* (L.) Pierre
- 【分布】 インド、マレーシア、オーストラリア、ポリネシア、南中国、台湾
日本では屋久島以南
- 【形態】 20m内外の高木 常緑広葉樹 花はうす紫色でフジの花のようにたれる 実は木質の莢状
- 【用途】 緑肥 日陰木 街路樹 潮風害防備 防風林 魚毒
- 【花・実】 開花は3～4月、8～9月 実生は5～6月、10～11月



屋敷木にもなる



実はよく発芽する



ゲンバイヒルガオ

【方言名】 アミフィバナ、ハマカンジャ

【科名】 ヒルガオ科

【学名】 *Ipomea pes-caprae* (L.) R. Br.

【分布】 熱帯、亜熱帯地方

日本では四国・九州南部以南

【形態】 地被類 多年生草本 花は紅紫色 果実は扁球形

【用途】 平面、法面

【花・実】 開花は6～9月 種子は秋



モンパノキ

【方言名】 ハマスーキ（沖縄）、インスーキ（宮古）、ソーキギ（八重山）

【科名】 ムラサキ科

【学名】 *Messerschmidia argentea* (L. f.) Jonston

【分布】 台湾及び熱帯地方

日本ではトカラ列島宝島以南

【形態】 2～10mの低木 常緑広葉樹 高さ4～5m 花は白色で小さい
核果はほぼ球形

【用途】 緑化樹 添景樹 下木 庭園樹 魚毒

【花・実】 開花は5～6月 実生は10～12月



種子はよく発芽する



海岸植生の代表種



白い花を咲かせる



クサトベラ

- 【方言名】 スーキ（沖縄、宮古）、ハマスーキ（八重山）
【科名】 クサトベラ科
【学名】 *Scaevola sericea* Vahl.
【分布】 台湾、南中国、インド、オーストラリア、マダガスカル
日本では屋久島・種子島以南
【形態】 3～4m内外の海岸性熱帯小高木 常緑広葉樹 花は白色
果実はつややかな白い球
【用途】 添景樹 下木 防潮樹
【花・実】 開花は7～9月 実生は8～9月（採種期）



宮古島七又海岸の風衝植生



花



花と実



種子は良く発芽する

ナハキハギ(オオキハギ)

【科名】 マメ科 Leguminosae

【学名】 *Desmodium umbellatum* (L.) DC.

【分布】 中国、台湾、インド、熱帯アジア、太平洋諸島、オーストラリア
日本では沖縄島が北限、沖縄本島の今帰仁村、漫湖一帯
石垣島、小浜島、西表島

【カテゴリー】 危急種 ガーナー森とともに那覇市の天然記念物

【形態】 3～6mの低木 常緑大低木 花は白色 果実はやや木質の
節果（マメの莢状）

【用途】 飼料 緑肥 防潮林 防風林

【花・実】 開花は6～8月 実は9～10月



ナハキハギの実



那覇市鏡原のガーナー森

ハスノハギリ

【方言名】 トッカチナ

【科名】 ハスノハギリ科

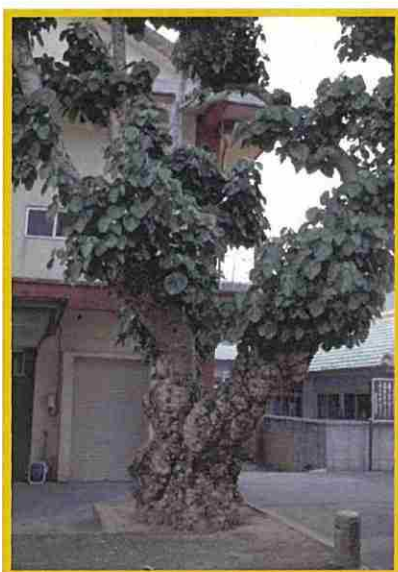
【学名】 *Hernandia nymphaeaefolia* (Presl) Kubitzki

【分布】 台湾、熱帯アジア、東部アフリカ、マダガスカル、ポリネシア
日本では小笠原・沖永良部島以南

【形態】 高木 常緑広葉樹 花は白色で径約3mm 果実は楕円状球形で長さ約2cm

【用途】 景観樹 防潮風樹

【花・実】 実生は3～6月



海岸砂地植生の代表種



名護市宮里、御獄の群落は県指定天然記念物

